2026.10.30　釧路新聞

6実証事業を精査、継続へ

釧路新産業創造研が総会

釧路に新たなビジネスを起こそうと若手経営者や学術、金融機関、釧路市などが参加する「釧路新産業創造研究会」（宮田昌利会長）が16日、市内で総会を開き、六つの実証事業を精査し引き続き事業化を目指す方針を確認した。

具体的に稼働している事例として、山一佐藤紙店（釧路市北大通8）の佐藤公一郎社長が昨年立ち上げたエゾシカ革製品の製造・販売会社「エゾシカル」の取り組みが紹介された。直近では鶴雅グループのホテルのルームカードキーケースを製造したことなどを報告した佐藤社長は「野生のエゾシカ皮の傷を生かした唯一無二の商品開発が鍵。害獣として憎まれる厄介者を地域の宝にしていきたい」と今後に意欲を示した。

同会は前身の「釧路産業クラスター創造研究会」を発展的に解消し2023年に誕生。現在は30社が加盟し、釧路の冷涼な気候を生かせるデジタルやエネルギー分野、健康食品生産などで可能性を模索している。市からの年間300万円の補助は25年度で終了し、今年度からは会員の会費を主な財源に運営している。（五味亜希子）

総会で事業を報告し合う釧路新産業創造研究会

サンエス企業グループ代表 宮田昌利が会長を務める「釧路新産業創造研究会」の関係記事です

10月20日付の北海道通信、北海道新聞、北海道建設新聞にも同様の記事が掲載されました